

「科学」と楽しく触れ合い

沖縄サイエンスキャラバン in 宮古島

実験通し探究心高める

親子連れ800人が来場

子どもたちの科学技術に対する興味と関心を高め、創造性・知的探究心を醸成することを目的とする「沖縄サイエンスキャラバン in 宮古島(主催・離島・遠隔地等科学コミュニケーション推進プロジェクトコンソーシアム)」が12日、市中央公民館で開催された。会場は早朝から大勢の親子連れが列をなし、場内に設けられた13の実験プログラムコーナーで、それぞれの科学実験を楽しんだ。約800人が会場を訪れた。子どもたちは各コーナーで行われる実験に目を輝かせて見入り指導する人たちに方法を教わりながら実験に取り組んだ。

「ねばねばアロエの秘密のジュース」と銘打たれたコーナーでは、子どもたちがオリジナルのアロエジュースづくりに挑戦。コーラルベジタブル社品質管理担当の盛島慶子さんからジュースのブレンドの仕方を教わりながら、お手製の



ブレンドの仕方を教わりながらオリジナルアロエジュースづくりの実験に取り組んだ子どもたち=12日、市中央公民館



簡易地震計「ゆらゆら」の工作方法を子どもたちは真剣な表情で見入った

ジュースを作った。実験に参加した福田彩織さん(上野小5年)は「自分たちで分量を決めて好みの味に仕上げることができたので、とても楽しいと話した。」

また、「揺れるナゾを解きあかせ!地震実験装置ゆらゆら」のコーナーでは琉球大学物質地球科学科の学生、大学院生らが簡易地震計の作成を指導。子どもたちは工作の仕方を真剣な表情で教わった。

「水中シャボン玉」のコーナーで実験に参加した上原史月輝君(南小3年)は「いろいろなコーナーで実験してみたが、水の中でシャボン玉が作れたことに感動した。実験が成功してとてもうれしかった」と感想を述べた。

同事業は「沖縄サイエンスキャラバン構築事業」として県企画部科学技術振興課からの委託を受け、県公衆衛生協会、NPO法人たのしい教育研究所、カルティベイトの3団体がコンソーシアム(連携事業体)を形成し実施している。また、沖縄科学技術大学院大学、琉球大学、市エコアイランド推進課、宮古工業高校のほか、コーラルベジタブル社、元気生活株式会社などの地元企業が実験や工作プログラムの実施に協力した。